



門へ遠 18
1918

一松虫向鈴虫物語之事 并蟬蜻蛉注意之

一蟬ヶケ 諸出軍催事 附 蟪蛄和漢の

一例と引軍評定之事

一蜘蛛ヶケ 巢へ一族招集事 平蜘蛛口輪付

一穴蜘蛛書之

一蟬蜻蛉ヶケ 巢に押寄事 付 蜂先疎一

一巢と攻破事

一蟬二夜之戦り 蟪蛄軍法之事 付 蜻蛉

一僅平雨の依下戦失大利事

小寺
玉呂文庫

<不明>

一蟬敗軍を催し勝負拙を歎き并然蜂
加勢働之事一跡跡泰之井付結忠園
去事

津とくたなるものよ日暮しあつとわくの野
おしひくふらうつりわし事とそ
うらうらと地のいと折帯かすつたふさ
あそねよく物くるもの音るんしるあわさ
社拍子一足とらぐとそ是とらぐは松
乃珍虫より己が類葉の一戦の及し事
夜も承くと信信泉いさやせよせん
彼若回乃がんとぬのねる事
か居虫よのたぐいも意氣比みく事
あそ人絶回かす水草清野中よは

そる社不思議の事なる同心なごらふ事
わ

輝乃野道と南にぬき虫の

一息するかゝる宿とあり

とちの哥の不圖うらみ思ひ合ふくさ

中とも今着り絶ぬ



松虫鈴虫物語之事

松虫始くいづく者過に同地は
今着り去は不思議の一乱れ起り我
既草葉の露と清みんといふ事
今着り及く事あぬと鈴虫と
作我は初遠境に越え及海
柳も去ると是は檀林に疾く
余取の月乃と日我月と
又燈夜乃具あんとりける
さわつた先度の次舟のへ

松虫

三

まゝに討つるなるは今洋時と尋く進まざる
 終へしと一府の者も中より半年一歳異
 見しとれずとせり半は後より未だんがた船を
 進かす中一は海勇の佐の弟一は船居の詞
 一は付先某あるよは峰今義兵と舉げ一府の等
 計はね備置きとて任集し押寄討果ん外も
 官封くよはゆとせられ戦とつて敵と大井にお勝第一
 謀と細よ味方と教めかすはく一戦は勝
 一は武略とせり彼は教とて我は敵とせり
 乃内堂社佛圖の無忍日夜は悪軍死血一善

人倫よつらうとくはつと博とるは一とくや
 我むしよきの空と我は結末日は類とて性
 遺恨と合族今御あまは指と移よはと御あは
 法もいまご討つ至くと新大依の企る一此度
 血文とて種法と出共出招有と懇懇よはねわ
 笑のあし遠破は船ある心地と推し解しとて其
 法勢一様同くは押寄物あつて是れが一類うら
 丸軍は不可通とせりとせり

無評記



一蟬特蛉乃有将赤子あかこんがり此助を命がよ本てこも理
 統め也とく羽撒と徳をも四方羅へ使とまされん
 蜂れくく廻り蟻づぐく群く能集る共月
 先一あま子鶴娘の大長足長機織安の小七甲虫の
 与の友作堂の十命尾光燈燦の末重蜻蛉大儻
 蟋蟀斑猫れぬ毒持枇杷虫伝や小蝶菜と葉の
 以長友月一族黒蝶黄蝶わげ羽のひら繁切虫の
 沖矢ら相虫林虫の沖虫の江命をさすも蟻乃の善人
 沖指とさかぶり其八命蜘蛛の一儻羽わら虫
 之友志との一儻のまごじり孫買れぬ命系後同る

乃在六玉虫女の物膳細の八帝刺安とより虫女
七帝のありやとてく虫の令ら帝輝乃一儻馬螺
曰一族番螺下鄙作耗の去帝か子と縮虫女の
物螺のとく土佐牧虫の射玄久情吟螺が伴影
る螺啞螺日善のの帝赤蜻蛉のぬきと沖表
るつやととを少なり少力の書に白子ぬるまごん
ふ虫是水の勢と始とて雲霞のくく群集の勢
よの何成唐漢陽宮殊城殿とも一時は掃破ん転
わたりととく冷とくとも愚と螺蜻蛉立出
一孔と洞席と近分と云我くおなよ少欲逆さす

虫女とをりて何のよ及子細早速者気へ山掃就
加の既悲悦と斜身と螺の覚く糸ととる螺今日日
中へ糸北列中糸糸が二子よ小螺乃小六角螺二三
目先は夕朋友と志とてい夜ゆよ不圓糸ねとて是
しるる東南より當り被傷のぬきと長教例の程をと
物ぬのさざりぬるるふよゆぬり周りと此業は及死
ゆきども因果の佛芥も雅脱中と悟り乱る心と我を
志ぬる善心と痴人と欲あよ斯二首は狂奇を
我つあよたてと進上と上よ糸と浮く事何れ
わんぬれぬとあぬとるが菓つよ尸と瀑んと一族お伏

といども彼へ任業と指しお侍構る下は我小勢と
 心の中を振舞ふ事難計を思はん角やわらふ事
 夜が惱の去去疎るる折帝情吟牛の飼ひ一子
 かくれかくれ討つるは勝氣よ外証は中使傳へる
 秘に公より招密謀と加不年比日比の如親もわらふ
 急者と信約し由果凡も驚り知るべらんやと
 葉越白一変り及相の中後約は乃内助勢乃
 沙志よりつくり我素懐と救はつるは敵よ休まら
 情さるべし哀れ亦一味同心有く是故に敵軍
 絶兵急よ拉は勇力もわらんし心座と守めはれ

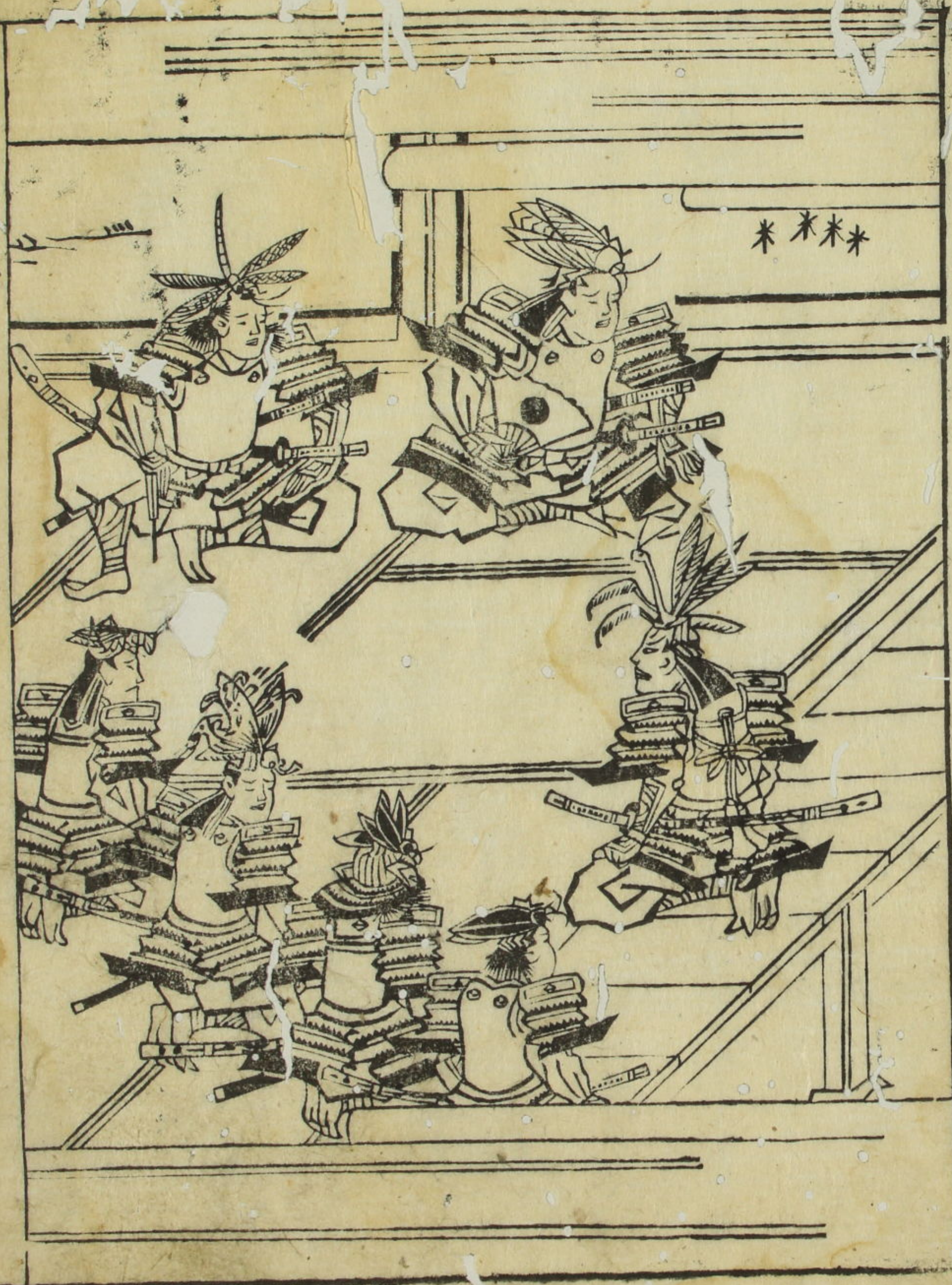
懇勤りし述のり討つ又とんがし初合つひつらに只と
 高島も高島に連糸糸中一ゆき大軍と催進
 かく敵し一族とくくしひ勢懐と進えのりて今迄
 斗と延し一ひの勝るるやと一夜の若急糸進
 高島も高島に連糸糸中一ゆき大軍と催進
 かく敵し一族とくくしひ勢懐と進えのりて今迄
 斗と延し一ひの勝るるやと一夜の若急糸進
 高島も高島に連糸糸中一ゆき大軍と催進
 かく敵し一族とくくしひ勢懐と進えのりて今迄
 斗と延し一ひの勝るるやと一夜の若急糸進

後と合一夜の諸魔と申す余の我りする一社の
 族思ひのげさる事おんじ事に初と讓合宗却の
 居りするも時燭炬大長進也りするの首唐後
 魏之代は陳石郭といふ若き人の子と持も名と若
 啓といふ被さるる罪なきくして後若乃為り死刑
 小初まら又陳石郭李啓が玄科く果し其後
 乃かしく間もわさるればといふも心平養を令
 すまむ後若乃遮く帝都と逃致り陳石郭
 とい悔は玄甲裝有らるるの序原は固しと
 しく月日とるしする必道襄州の倭人若と燭也

らひめて国の政道邪曲日夜は添増民の愁止時
 るは時不意は序原に一様おる陳石郭も一方
 乃初と成不意は初と憫んとす帝大に運轉もて
 意も安人と改て惟天道邪と憎めしひわも其後
 安軍利と失ひ帝の御陳傾く一先し退んと龍
 初と明らる賊徒沈雲霞のどく契り初と塞後
 と包も時疎る郭が疎らり碎くる下りてと初
 よわも備者をと貪我は組をさる若と戒い其罪
 罪は沈め民の畏日に増巴が威勢と改て時至り
 あど若王は龍衣りんと骨肉もえんとぬくむといふも

全方くくわの新計畧ハ心中よわん牛一平に
 下に付伴定の番一と成るやんや先我未接も
 一平一は伝まとも交軍とつてお辨れぬお子も
 よろくお身一味の心一致するとどらに傳
 ぬり次一あさび度の儀一は強い連府を我も
 と是よ弛集るうへ軍將と接取一定め帳於
 と副お軍一立場帳大臣及一軍將のともつと
 下知と知らる味其再禱一由をも御則今と
 藝成しりも抑一引別一平負とせん一立平に
 一達よる一持りまよ施楚忽の独働日んよ
 一

日終日終居とも他よつてと疎る一毎火
 氣と飛りまより一軍將も使あ夜向り
 一池也をも望く用心告身一敵巢網一指
 一我の務負とも一平けの紐付
 一中一足も立あどくれ一巢内一離き
 一も一公方一軍一急睡眠の床と
 一不さ一と窺陳屋のあ後方たよ彼一
 一小繩一をく一強一に一河
 一乃肉一よ一さ一ま一よ一
 一夫一よ一あ一ん一矢一も一ら一踏
 一



梯のち大將軍と司軍の成敗けり。城塔中を
 といふ。善の自性。日々。お陳。密に。已。今
 日。天。一。天。上。日。と。ひ。は。公。井。の。字。の。不。明。
 月。の。敵。の。意。と。付。人。よ。志。く。あ。ど。太。公。曰。兵。勝。之。術。
 密。に。察。敵。之。機。と。も。や。ふ。案。其。利。疾。討。其。不。意。
 と。中。の。め。の。ま。い。ど。く。お。立。た。り。べ。し。と。い。ひ。し。と。
 月。と。く。お。合。を。辨。み。百。余。也。城。が。集。城。よ。ぞ。あ。
 よ。と。い。ふ。

一、家子孫の恩大命是救天却地我知く蟬吟吟道
 意と奈くわ下り心まーり横目とつまきと氣
 雨の蟬の音るが鐘と法と軍影と影り既短共
 足下に催めののー告事りくんと蟬大さ小聲る巴の
 数葉へ五成若る井必掃齒川是救が一敷ゆ井
 小らんと因章噪一也柳は此集族よハ平越代太
 足早蟬の蟬の飛虫の土蟬の大露是る蟬吟吟
 小蟬のひ言地力の小な太兄蟬大結目光金身
 山蟬乃西めく袋蟬の太良喜蟬吟吟言上臘蟬吟
 足蟬蟬蟬乃ハ音官蟬有虫の乃耐真法もハ葉蟬

小蟬と始として一家一族僅よ九十三之過太命
 葉蟬のぞ蟬りするの何足救一敵と蟬應言
 為我有夕暮よ小乃竹のハ府と組季若れ蟬
 風よ心と遷一

竹亭陰合偏冥夏 水搯風涼不待種
 去待乃心と葉下よ蟬乃六命が一子小蟬れ小六
 書續不さよ我ら前よ飛来る柳狼藉及是也
 而対よ是と討れぬ是身業自果乃脱る邪こ此
 了尚成蟬吟と我蟬乃旗降と音蟬吟牛初と
 ころこい法乃虫若と拍虫肉及共沙法在後目成

自然よけ交結方利と夫あむ一家の滅亡は討
 れんと末綱畢らるるを勝大の眼と見えし扱も
 平場乃腹痛より一歩も歩むはるるをよき
 能もはるるより左程敵よ悪もあしはるる末程
 勝よりあつらふはるるを早よあつらふ平場
 大も後よ何人かしと申我腹一と申とや
 美軍とつらと智謀と敵と討申を良将の業と
 ととあつらふの序例破の血も武も敵大軍と
 見く初の何とお返しと早勝とあつらふ
 なる討の却と味方の突と敵序討は地味も

えからし氣又智りたれど是地よりあつらふ
 みく推系成りしとあつらふあつらふあつらふ
 又初とあつらふあつらふあつらふあつらふ
 さらしと一産一夜よあつらふあつらふあつらふ
 と酒の碑ありや一家乃陣地つ指突とあつらふ
 幸懐とあつらふあつらふあつらふあつらふ
 とあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ
 弟乃小中何れとあつらふあつらふあつらふ
 平場理の眼と獅子の法と押へるる討
 討何とあつらふあつらふあつらふあつらふ

二にえんしんがくありあはれ神妙なるは昔項羽と祖
 の威と鋒ひ軍門の席に連し項羽乃兵を増
 してしるまざるは近付指邊人と細と接く紫と舞
 る程の如くに張良は氣とてや家一孫と似
 事の危と接樊噲の指と接く軍門の如く
 惟幕と接大の眼く角と立光日月と款る頭乃
 髪率わつくと項王と獨と白服一勢へと以て
 けつるは平場の如く指邊とて尾端の樊噲の勇
 りは仰りて文武の如く甲とて一ははるを物に
 血氣の勇一途は勵斗はわつと一は味方の法率に

弦氣と進んを謀商たり又平場の大敵を弁るれ
 の評彼勿倫と理連は古正平の草率雀の院乃
 柳之は平乃平内とて言ふ事ありて自早款主
 と名系我は随ふると所討は攻亡武威と近星遠
 境は震しんかどが猛威は思くを不附随はある
 の邦は都と立あ乃命お几下附属乃寺と威志
 り位百石と進思道と道世は起りて時平城豊
 院宣と家り園系下向はるひしを園八列の武士
 とも徳在た秀輝と初とて強しとて此系文登
 とも母板可余海正門は城は押寄とてしる門は也

